

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2019/12/31	2020/1/31	2020/1/31	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	23,656.62	23,205.18	23,205.18	24,448.07	2018/10/2	18,224.68	2017/4/17
NYダウ	ドル	28,538.44	28,256.03	28,256.03	29,373.62	2020/1/17	19,831.09	2017/2/2
円/ドル	円	108.61	108.35	108.35	115.51	2017/3/10	104.46	2019/8/26

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～新型コロナウイルスの感染拡大や一部企業の業績回復に対する懸念から、下落～

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲622.00円(▲2.61%)、TOPIXが▲46.00ポイント(▲2.66%)となり、新型コロナウイルスの感染拡大や業績回復の先行き懸念から、下落しました。業種別(東証33業種)でみると、証券・商品先物取引業、不動産業の2業種が上昇する一方、鉄鋼、その他製品、非鉄金属、金属製品などの31業種が下落しました。週初は、①新型コロナウイルスの感染拡大懸念が高まる中で、中国が春節期間を延長したことで中国景気の減速懸念が高まったこと、②中東情勢を巡りイランの米国管理地域にロケット弾が撃ち込まれたことなどから、大幅下落して始まりしました。28日、新型コロナウイルスへの警戒感が続く中、中国景気の影響を受けやすい機械関連中心に下落しました。29日、米国のハイテク関連企業の堅調な決算を受け、小幅に反発しました。30日、①新型コロナウイルスの国内での感染懸念が高まったこと、②10-12月決算を受けて、底入れが期待されていた一部企業の業績回復に対する懸念が高まったことなどから、大きく下落しました。週末31日は、新型コロナウイルスを巡りWHO(世界保健機関)が緊急事態宣言を行うも、貿易や渡航を制限する勧告がなかったことが買い安心感に繋がり、買戻し優勢となりました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回
2月3日	Mon	中国	中国本土市場、取引再開	
			財新中国製造業PMI(購買担当者景気指数)	1月 51.5
2月4日	Tue	米国	工業利益(前年比)	12月 +5.4%
			大統領選、アイオワ州党員集会(民主・共和)	
2月5日	Wed	米国	ISM製造業景況指数	1月 47.2
			一般教書演説	
2月6日	Thu	ドイツ	製造業受注(前月比)	12月 ▲0.7%
			財新中国サービス業PMI	1月 52.5
2月7日	Fri	日本	貿易収支	12月 ▲431億ドル
			ISM非製造業景況指数	1月 55.0
2月7日	Fri	ドイツ	製造業受注(前月比)	12月 ▲1.3%
			景気一致指数	12月 94.7
2月7日	Fri	米国	景気先行指数	12月 90.8
			鉱工業生産(前月比)	12月 +1.1%
2月7日	Fri	米国	非農業部門雇用者数変化	1月 +14.5万人
			大統領選、民主党候補者討論会(ニューハンプシャー州)	
決算発表予定 他	日本	決算発表 :	2/3 オリックス、パナソニック、三菱電機、京王電鉄、村田製作所、NTTデータ、カカコム、キッコーマン、シャープ、ソニー、ローソン、三井物産、MUFG、田辺三菱、花王、2/5 マツダ、三菱重工業、京阪HD、伊藤忠、住友電工、協和キリン、スバル、Zホールディングス、スクエアエニックス、2/6 オリックス、セコム、トヨタ、ニコン、三菱ケミカル、三菱重工業、JT、NTT、明治HD、資生堂 2/7 スズキ、ソフトバンク、三井物産、住友商事、旭化成、ホシノ、王子HD	
	海外	決算発表 :	2/3 アルファベット 2/4 アフラック、ウォルト・ディズニーマー、フォード 2/5 メットライフ、BNPパリバ、カナルコム、グラクソ・スミスクライン、シーメンス、GM、メルク 2/6 INGグループ、ユニクレディット、ツイッター、ファイアット・クライスラー	

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～新型コロナウイルスの感染拡大を背景とした世界景気の先行き懸念から、弱含む展開～

今週の日本株市場は、新型コロナウイルスの感染拡大抑制に向けて、①上海市や重慶市など中国主要地方都市は企業に対し少なくとも2月10日まで休業するように指示したこと、②日本を含め主要各国もWTOの緊急事態宣言を受けて中国への渡航等を制限する動きを強めていることなどが世界景気の先行き懸念を高めていることから、軟調な展開が続くと予想します。但し、新型コロナウイルスの動向には注視していく必要はありますが、有効な治療法の開発が進む中、①中国人民銀行が本日から再開する中国株市場への影響を抑制するため1兆2,000億元(約18兆7,000億円)の流動性供給を行っていること、②米国において再び利下げ観測が高まっていること、③日銀も先週27・28・30日に各702億円のETF(指数連動型上場投資信託受益権)買入を行うなど株価下落局面では必ずサポートに動いていることなどから、下値も限られるとみています。その他の注目材料として、日本では7日の景気動向指数、米国では3日のISM製造業景況指数や5日のISM非製造業景況指数、7日の雇用統計、ドイツでは6日の製造業受注や7日の鉱工業生産、中国では5日の財新中国サービス業PMIなどが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co., Ltd.
URL: <http://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会